

谷合第1遺跡

谷合第2遺跡

大塚遺跡

沿海南部地区広域農道建設事業に
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(2)

1994. 3

宮崎県教育委員会

谷 合 第 1 遺 跡

谷 合 第 2 遺 跡

大 塚 遺 跡

沿海南部地区広域農道建設事業に
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(2)

序

宮崎県教育委員会では、県南那珂農林振興局の依頼を受けて、昭和63年度から沿海南部地区の広域農道建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査を継続的に実施しています。今回は、北郷町内で本格的な発掘調査は初めてであった谷合第1遺跡・谷合第2遺跡・大塚遺跡の3遺跡について報告しています。

報告する3遺跡については、遺跡の立地条件は決して良い場所ではないため、検出遺構はあまりなく遺跡の規模も小さいものでしたが、山間部においても地形等の条件さえ整えば、規模は小さいながらも遺跡が存在することが判明したことは大きな成果でした。

これらの調査成果が、今後地域研究に役立てていただき、さらに文化財へのご理解を深めていただければ幸いに存じます。

なお、調査に際して、南那珂農林振興局をはじめ、北郷町教育委員会並びに地元の方々のご協力に対し感謝申し上げます。

平成6年3月

宮崎県教育委員会

教育長 高山 義孝

例 言

- 1 本書は、沿海南部地区広域農道建設事業に伴う南那珂郡北郷町谷合第1・谷合第2・大塚の3遺跡の報告書である。
- 2 本報告書でを使用した遺構等の実測図は、各調査担当者が作成した外、大塚遺跡については、北郷町教育委員会社会教育課主事時元省三氏の協力を得ている。
- 3 遺物・図面の整理は、埋蔵文化財センターで行い、遺物の実測・拓本等については整理補助員の協力を得てこれを行った。
- 4 本報告書でを使用した写真は、各調査担当者が作成した。
- 5 本書でを使用した方位は、すべて磁北である。
- 6 本書でを使用した記号は次のとおりである。
S C…土坑 S E…溝状遺構
- 7 本書の執筆は、各調査担当者が分担して行なった。
- 8 出土遺物及び調査記録等は、宮崎県総合博物館埋蔵文化センターに収蔵している。

本文目次

I	はじめに	
	第1節 遺跡の位置	1
	第2節 調査に至る経緯	2
II	谷合第1遺跡	
	第1節 調査の概要	5
III	谷合第2遺跡	
	第1節 調査の概要	7
	第2節 層位	7
	第3節 遺構	7
	第4節 遺物	12
	第5節 まとめ	17
IV	大塚遺跡	
	第1節 調査の概要	28
	第2節 調査の結果	28

挿図目次

第1図	遺跡の位置	1
第2図	遺跡周辺地形図	4
第3図	谷合第1遺跡第6トレンチおよびI区1トレンチ土層図	5
第4図	谷合第1遺跡地形図及びトレンチ配置図	6
第5図	谷合第2遺跡遺跡周辺地形及び発掘区位置図(1/1,500)	8
第6図	〃 A地区遺構・遺物分布図(1/400)	9
第7図	〃 B地区遺構・遺物分布図(1/400)	9
第8図	〃 A地区土層図(1/80)	10
第9図	〃 ピット(1/40)	11
第10図	〃 出土縄文土器(1/4)	13
第11図	〃 出土石皿(1/8)	14
第12図	〃 出土石器類(1/4)	15
第13図	〃 出土磁器・砥石(1/2)	16

第14図	大塚遺跡地形図及びトレンチ配置図	29
第15図	◇ 遺構分布図・土層図	30
第16図	◇ 出土遺物(1/3)	31

表 目 次

表 1	谷合第 2 遺跡遺構一覧表	10
表 2	谷合第 2 遺跡遺物一覧表	18~20
表 3	大塚遺跡出土遺物観察表	32

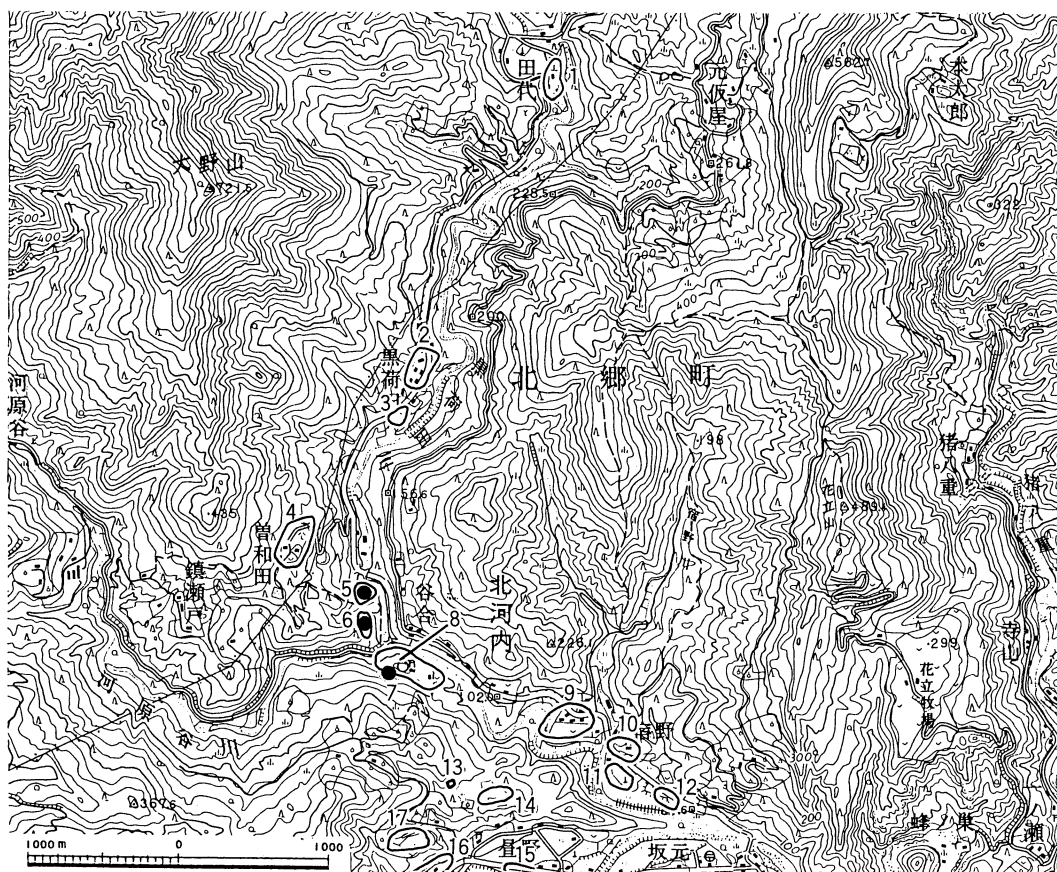
図 版 目 次

図版 1	谷合第 2 遺跡遠景／発掘調査前全景	21
図版 2	B 地区発掘前風景(A 地区から)／工事後の谷合第 2 遺跡(北から)	22
図版 3	磁器出土状況	23
図版 4	ピット検出状況	24
図版 5	出土遺物：縄文土器・石器(番号は実測図と同一)	25
図版 6	出土遺物：石器(番号は実測図と同一)	26
図版 7	P 1 検出磁器破碎状況／出土遺物：石器(番号は実測図と同一)	27
図版 8	大塚遺跡近景／調査区南半部／第 5 トレンチ礫出土状況	33
図版 9	S E 1 土層／出土遺物(表)／出土遺物(裏)	34

I はじめに

第1節 遺跡の位置

広渡川の支流である黒荷田川は、北郷町と田野町との境界となっている大戸野越に源を発し、鰐塚山地間の深い谷を南流している。谷合で流路を南東に変え、坂元で広渡川と合流している。黒荷田川の流路沿いの中で谷間のやや広い部分では盆地状地形が見られ、狭い部分でも河川の両側の山腹には河岸段丘状の緩斜面が見られる部分がある。河岸段丘状の緩斜面と河川との比高差は、10数mはあり急崖となっている。遺跡は、この河岸段丘状の緩斜面や盆地状地形上に立地している。今回報告する谷合第1遺跡・谷合第2遺跡・大塚遺跡は、谷合の北面する標高約125mの河岸段丘状の緩斜面上に立地している。緩斜面は谷により分断され、各緩斜面に遺跡がある。



- 発掘調査地点 1.田代遺跡 2.黒荷田遺跡 3.瀬之口遺跡 4.曾和田遺跡
- 5.谷合第1遺跡 6.谷合第2遺跡 7.大塚遺跡 8.町指定大塚古墳 9.前田遺跡
- 10.宮の後遺跡 11.宮の前遺跡 12.牧野遺跡 13.池之上遺跡 14.昼野上遺跡
- 15.鋤代田遺跡 16.中須賀遺跡 17.桑津留遺跡

第1図 遺跡の位置

黒荷田川沿いに分布する遺跡は、今回報告する遺跡の他には、9遺跡ほどが確認されている。この中で時期等がある程度判明している遺跡は少ない。この中で試掘等の発掘調査が実施されている遺跡は、中萩遺跡・曾和田遺跡の2遺跡のみである。

中萩遺跡は、黒荷田川最上流の大戸野越付近に所在し標高430mで南面する尾根上に立地する。集石遺構を伴う縄文早期及び弥生後期の遺跡であり、小規模ながらこの様な高所に弥生時代の遺跡が所在することは注目される。谷合第2遺跡の北西500mに位置する曾和田遺跡は標高220mに所在する。当地は東面する緩斜面で縄文後期の遺跡であるが、以前に時期不詳の礫石経塚も発見されている。

その他の遺跡については表採資料のみである。その資料を見ると縄文土器小片が多く、田代遺跡で中世、瀬之口遺跡で弥生土器？、宮の後遺跡で近世？の遺物が採集されているのみで、縄文時代の遺跡と推定される遺跡が多い。

第2節 調査に至る経緯

宮崎県では、農業団地育成対策のうち流通形成を図るため広域営農団地育成対策事業の一つとして、地域の基幹となる作物の生産から流通加工までの流通道路として基幹農道の整備を図るため、沿海中部地区、沿海北部地区、沿海南部地区等で広域営農団地農道整備事業（通称「広域農道」）の建設を進めている。

沿海南部地区は、昭和55年度より事業に着手している。沿海南部第3期地区の日南市寺村～日南市山ノ口間7.5km・北郷町昼野～同町谷合間3.02kmについては、農業振興課から昭和59年3月30日付けで路線予定地内の文化財の所在の有無について照会があった。照会地については同年5月南那珂農林振興局・当該市町教育委員会と合同で分布調査を行い、日南市部分では遺物散布地4か所と地形上遺跡の可能性のある箇所1か所、北郷町部分では遺物散布地3か所と地形上遺跡の可能性のある箇所1か所が確認された。その際、北郷町谷合では、予定路線が町指定の大塚古墳に近接していたので、なるべく路線を南側の山際にするよう現地で依頼した。調査結果については同年6月回答し、また、振興局・当該市町教育委員会へも通知している。分布調査後の路線確定に際しての振興局から具体的な協議は成されないまま確定された路線は、文化財の所在の有無について照会時の路線とは異なっているが、大塚古墳については影響を与えないよう南側へ変更されている。

分布調査で確認された遺跡の中で、昭和63年度、谷合地区の谷合第1遺跡から工事に着手することになった。発掘調査は、2,300㎡を調査対象として昭和63年9月5日から10月29日までの予定で着手したが、遺物等がまったく検出されず、9月14日に調査を終了している。

大塚古墳の関係で路線が南側によったため、当初通過予定でなかった国有林内の東面し南北に長い緩斜面の東端を通過することになっていた。当地で遺物等の散布は確認されなかったが、地

形上遺跡の可能性があったので、谷合第1遺跡の調査終了後の9月28日試掘調査を実施した。その結果、2次アカホヤで時期不詳の縄文土器片、黒曜石等が出土したので、遺跡名を谷合第2遺跡とした。発掘調査は、工事着手年度の平成2年5月10日から8月10日まで実施した。

大塚遺跡には町指定の大塚古墳が所在し、また、古墳の東平坦部には弥生時代と推定される土器片が散布している。広域農道は、古墳の南側の山際の緩斜面を通過している。路線内では竹林等で遺物の散布は確認されていないが、土器片が散布している平坦部につながる緩斜面である。そのため平成3年7月22日から31日まで試掘調査を実施し数点ではあるが縄文後期の土器片が出土したので、同年11月25日から12月9日まで発掘調査を実施した。

3遺跡の調査組織は次のとおりである。

調査主体 宮崎県教育委員会

教 育 長 児玉 郁夫(昭和63年度～平成2年度) 高山 義孝(平成3年度)

教 育 次 長 山本 一磨(昭和63年度) 高山 義孝(昭和63年度)

高山 義孝(平成2年度) 増井 宏(平成2年度)

安田 天祥(平成3年度) 宮路 幸雄(平成3年度)

文 化 課 長 久徳 菊雄(昭和63年度) 梨岡 孝(平成2年度)

長友 巖(平成3年度)

課 長 補 佐 木幡 文夫(昭和63年度) 刀野坂次夫(平成2年度)

串間 安圀(平成3年度)

主幹兼庶務係長 小倉 茂光(昭和63年度～平成2年度)

庶 務 係 長 税田 輝彦(平成3年度)

庶 務 担 当 串間 俊也(昭和63年度) 長友 広海(平成2・3年度)

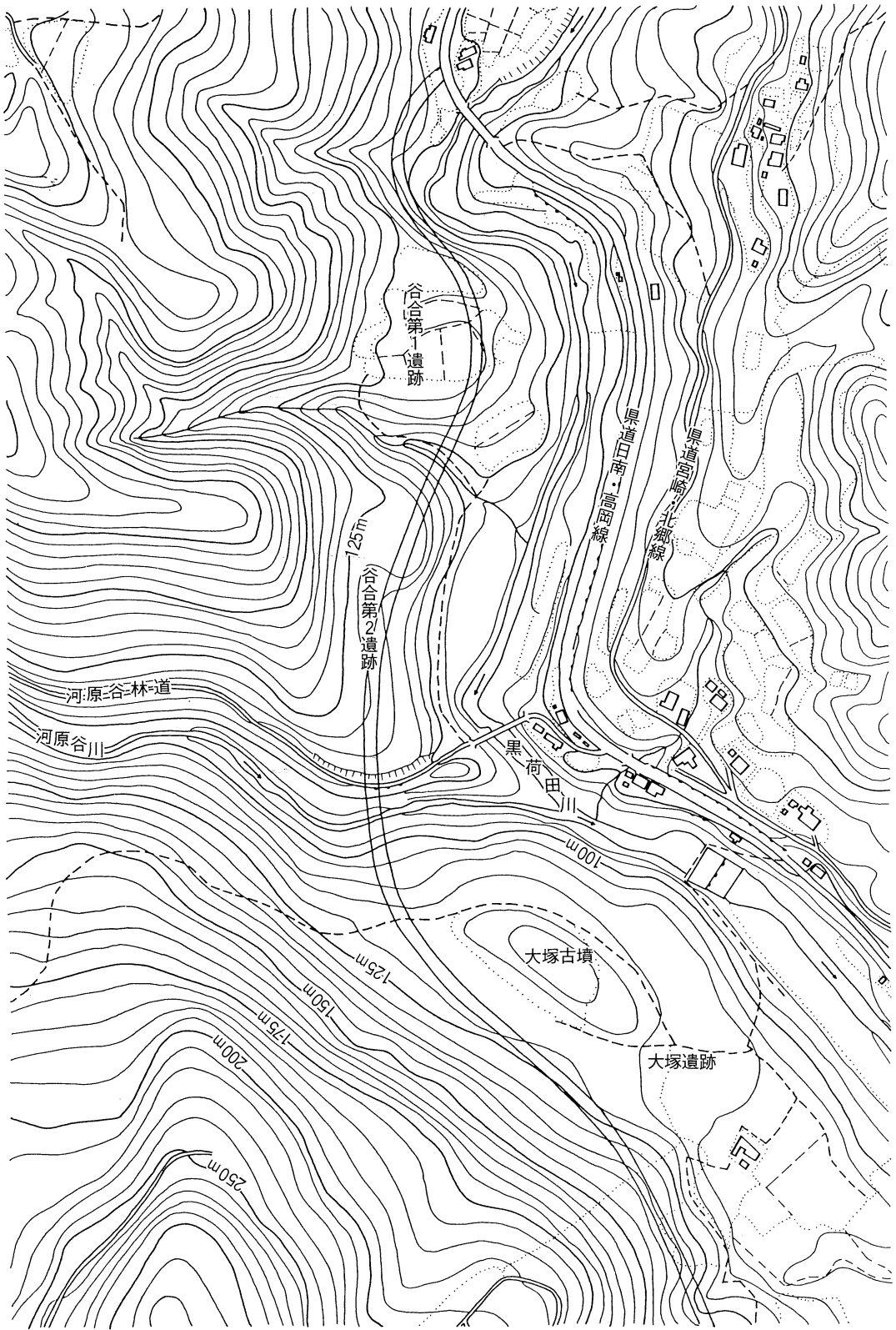
埋蔵文化財係長 岩永 哲夫

調 査 担 当 面高 哲郎(昭和63年度 谷合第1遺跡)

石川 悦雄(平成2年度 谷合第2遺跡)

面高 哲郎(平成3年度 大塚遺跡)

調 査 協 力 北郷町教育委員会 宮崎県南那珂農林振興局



第2図 遺跡周辺地形図

II 谷合第1遺跡

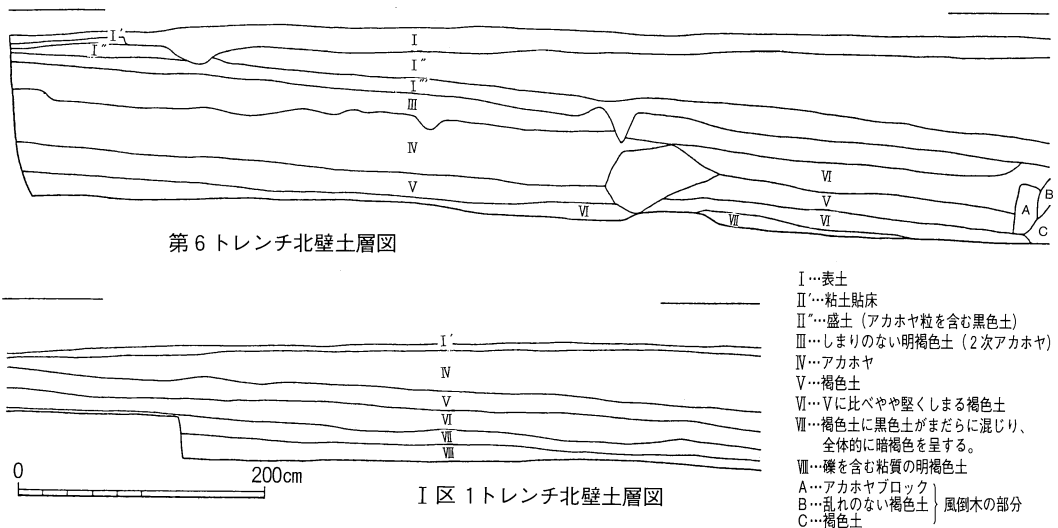
第1節 調査の概要

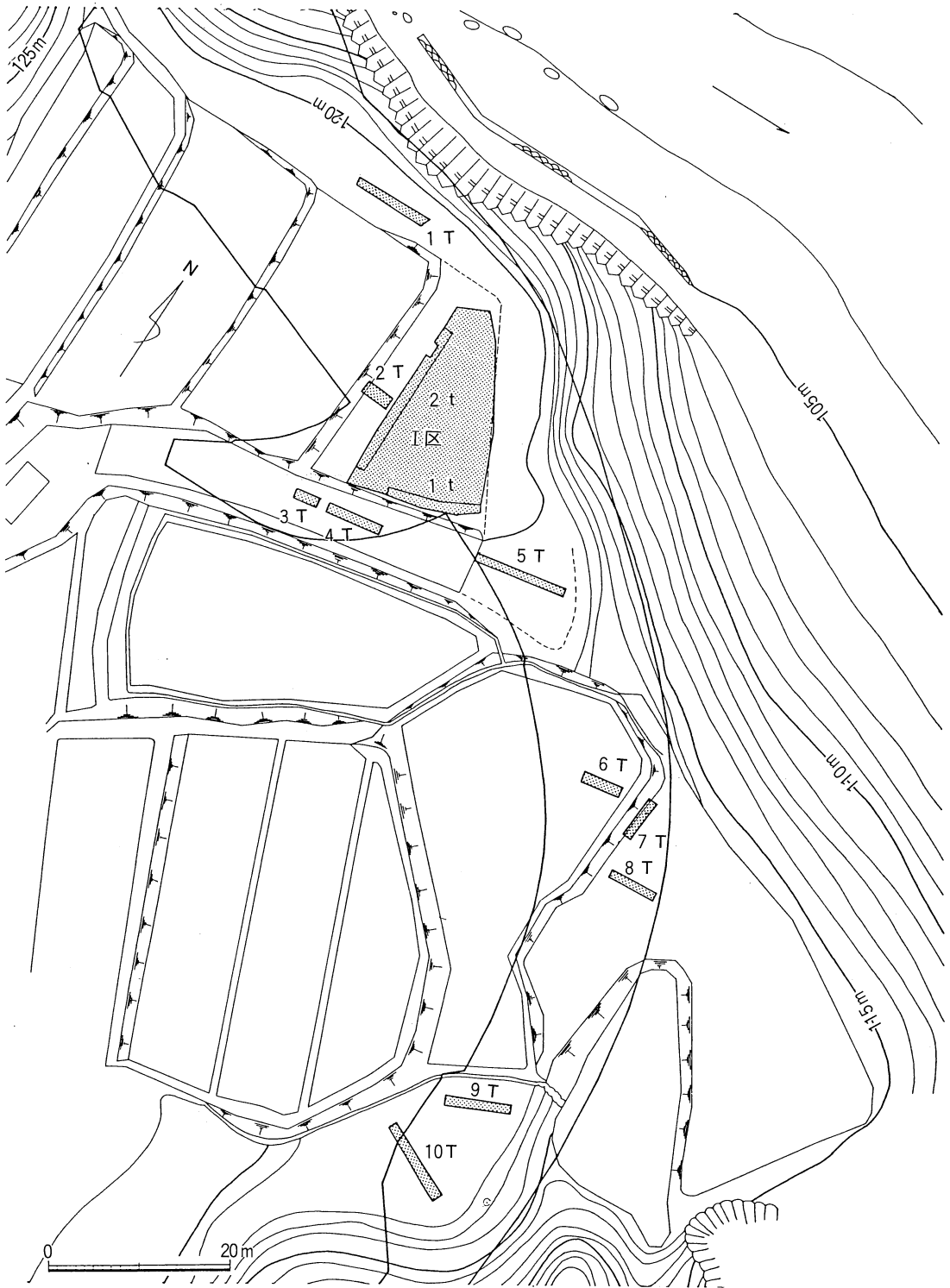
広渡遺跡の立地する緩斜面は、舌状を呈し中央部に小谷が走り南北の2区に分けられる。広域農道は、北区の中央部から南区縁辺部を通過している。

調査は、土器小片が散布していた（第3～5トレンチの水田）の上の調査対象地の中で最も広い面積の水田（I区）から着手した。表土を除去したところ、開田の際に削平を受けていたため、表土下はアカホヤとなっていた。表土を除去中において遺物はまったく出土せず、アカホヤ面においても遺構の痕跡すら確認されなかった。I区については土層確認とアカホヤ下位に遺物包蔵層の所在の有無の確認のため西壁と南壁のサブトレンチを設定して調査を進めたが、遺物包蔵層は確認されなかった。分布調査で土器小片を採集した水田にも第3～5トレンチを設定し調査を行ったが、この地点も開田の際に削平を受けており、アカホヤ層の上位については消滅している。遺物等は出土していない。

調査対象地の中で最も遺物等の出土が期待されたI区で遺物・遺構等がまったく検出されなかったため、その後の調査は、トレンチ法で実施した。第1・7トレンチでは表土下は黒色土で、第2～6・8～10・12トレンチではアカホヤ層となっている。11トレンチでは礫層である。各トレンチでも遺物等は出土していない。

調査の結果から、当地の基本層序は、第I層表土、第II層黒色土、第III層締まりのない明褐色土（2次アカホヤ）、第IV層アカホヤ、第V層褐色土、第IV層第V層に比べやや堅く締まる褐色土、第VII層黒色に褐色土が混じり全体に暗褐色を呈する、第VIII層礫を含む粘質の明褐色土となっていること確認される。分布調査では土器小片が採集されているが、発掘調査で遺物等はまったく出土しなかったため、遺跡の規模等は小規模ですでに開田の際に削平により消滅していると判断し、調査は1週間程で終了した。





第4図 谷合第1遺跡地形図及びトレンチ配置図

Ⅲ 谷合第2遺跡

第1節 調査の概要（第5図・6図・7図）

昭和63年度の試掘の結果に基づいて、道路予定地にA、Bの2発掘区を設定した。A地区は幅約50m、深さ20mの谷を隔てて北側にある谷合第2遺跡に対峙している。B地区は湧水の流下する小規模な谷を挟んでA地区の南に位置する。調査は遺構検出の困難な黒色土を重機で除去し、A地区では縄文時代のものと思われる土壌P4～6、近世の柱穴P1、P2、近世と思われる土壌P3の6つのピットを検出した。B地区では時期不祥の長方形土壌2基、円形土壌2基、柱穴1及び溝1本を検出した。遺構出土の遺物は多くなく、P1・P2の埋土から検出した染付類、P5埋土検出の縄文土器片程度であった。大部分の遺物は包含層から出土した。A地区では轟B式などの縄文前期土器、晩期の刻目突帯文土器、精製磨研土器及び石皿、石核、剥片、チップ等の石器類が検出された。B地区では曾畑式など縄文前期土器と石匙、石鏃などの石器類が出土した。土器類はいずれも破片で検出され、完形に近く復元できたものは無かった。

第2節 層位（第8図）

遺跡の基本層序は、上から厚さ25～40cmの、現地表に連なる黒色土、60cm前後の2次堆積アカホヤ火山灰、40cm程度のプライマリーなアカホヤ火山灰、灰褐色粘質土の順に堆積している。黒色土面で遺構を確認することは難しく、2次堆積アカホヤ層上面での検出となった。磁器など近世の遺物は黒色土中で、縄文時代の石器、土器は2次アカホヤ層上面及び層中で検出した。

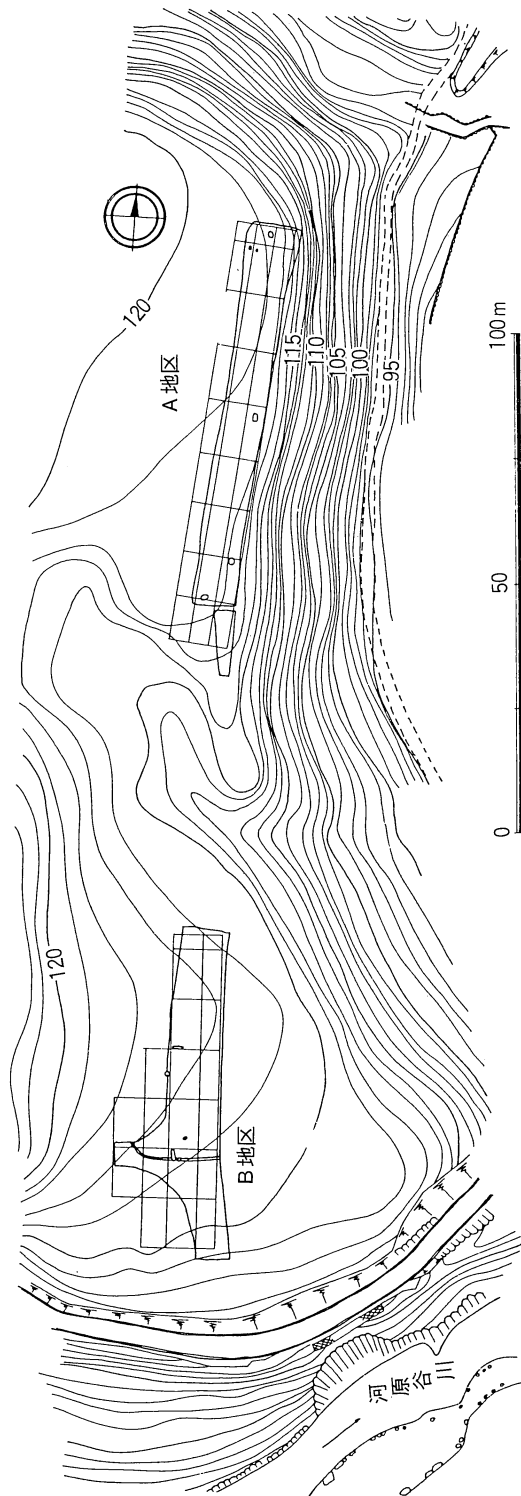
第3節 遺構（第9図、表1）

P1はAH2区で検出した円形土壌である。径60cm、深さ20cmの規模を持ち、埋土は黒色土の単一層である。規模形状から掘立柱建物等の柱穴の可能性はある。埋土中から第13図41から48に図示した染付等の磁器片多数が出土した。

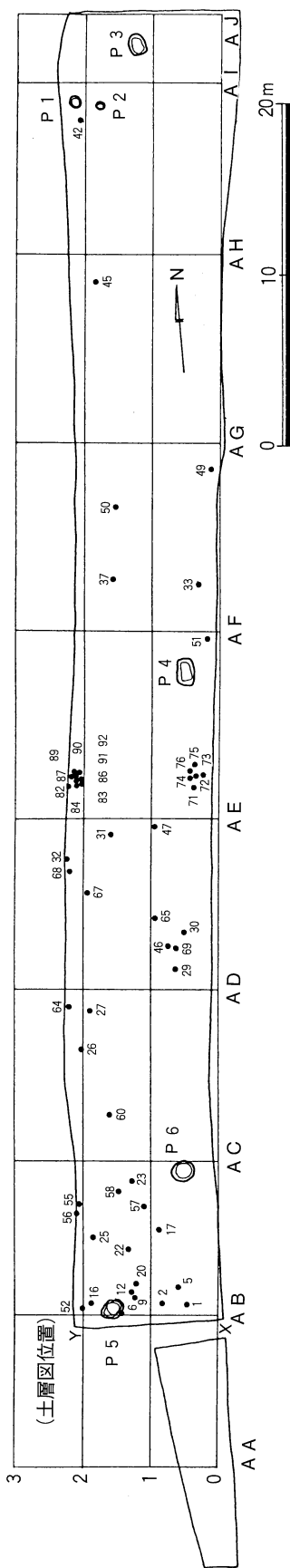
P2はAH1区で検出した。径約44cm、深さ45cmの円形小土壌で、P1同様、形状規模から掘立柱建物等の柱穴の可能性はある。黒色土の単一層からなる埋土からは、第13図49の染付片が出土した。

P3はAI1区で検出した。長径127cm、短径90cm、深さ20cm程の船底状の形態をした平面不整楕円形の土壌である。遺物は出土しなかった。埋土の状況からP1、P2と同様近世以降に掘削された可能性がある。

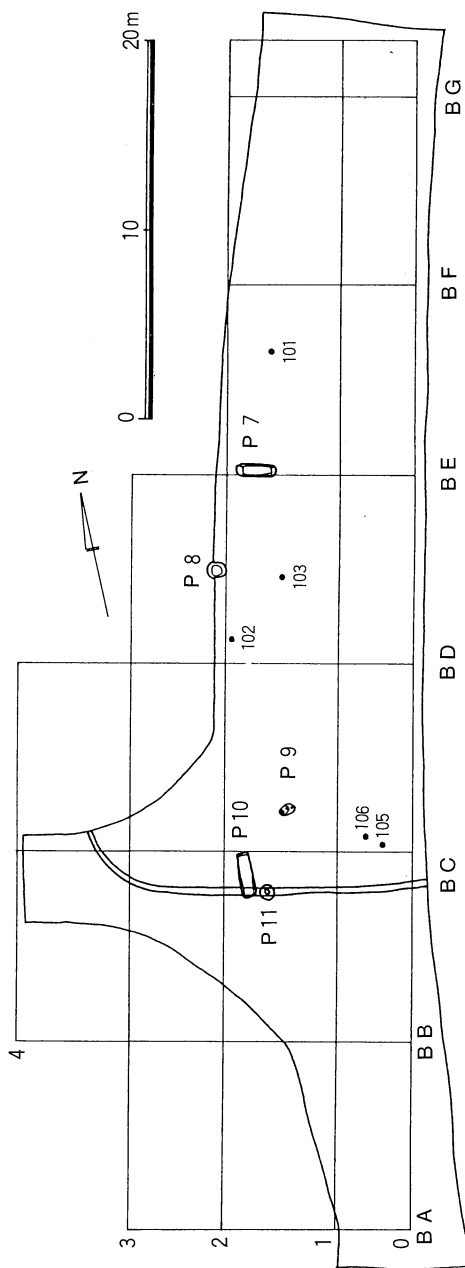
P4はAE0区で検出した。長さ160cm、幅100cm、深さ33cmの長方形土壌で、遺物等は検出できなかった。埋土は上層からアカホヤ細粒を含んだ黒色土、アカホヤ細粒を多く含んだ褐色土、やや汚れた2次アカホヤの順に堆積していた。土壌の壁面は2次アカホヤ、底面はアカホヤである。



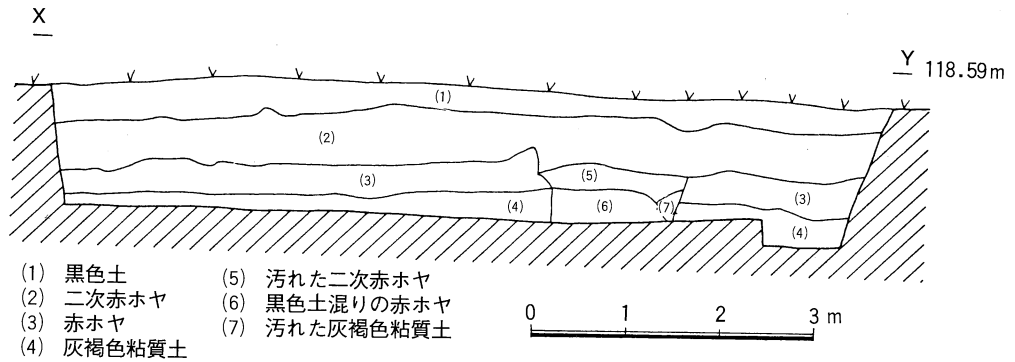
第5図 遺跡周辺地形図及び発掘区位置図(1/1,500)



第6図 A地区遺構・遺物分布図 (1/400)



第7図 B地区遺構・遺物配置図 (1/400)



第8図 A地区土層図(1/80)

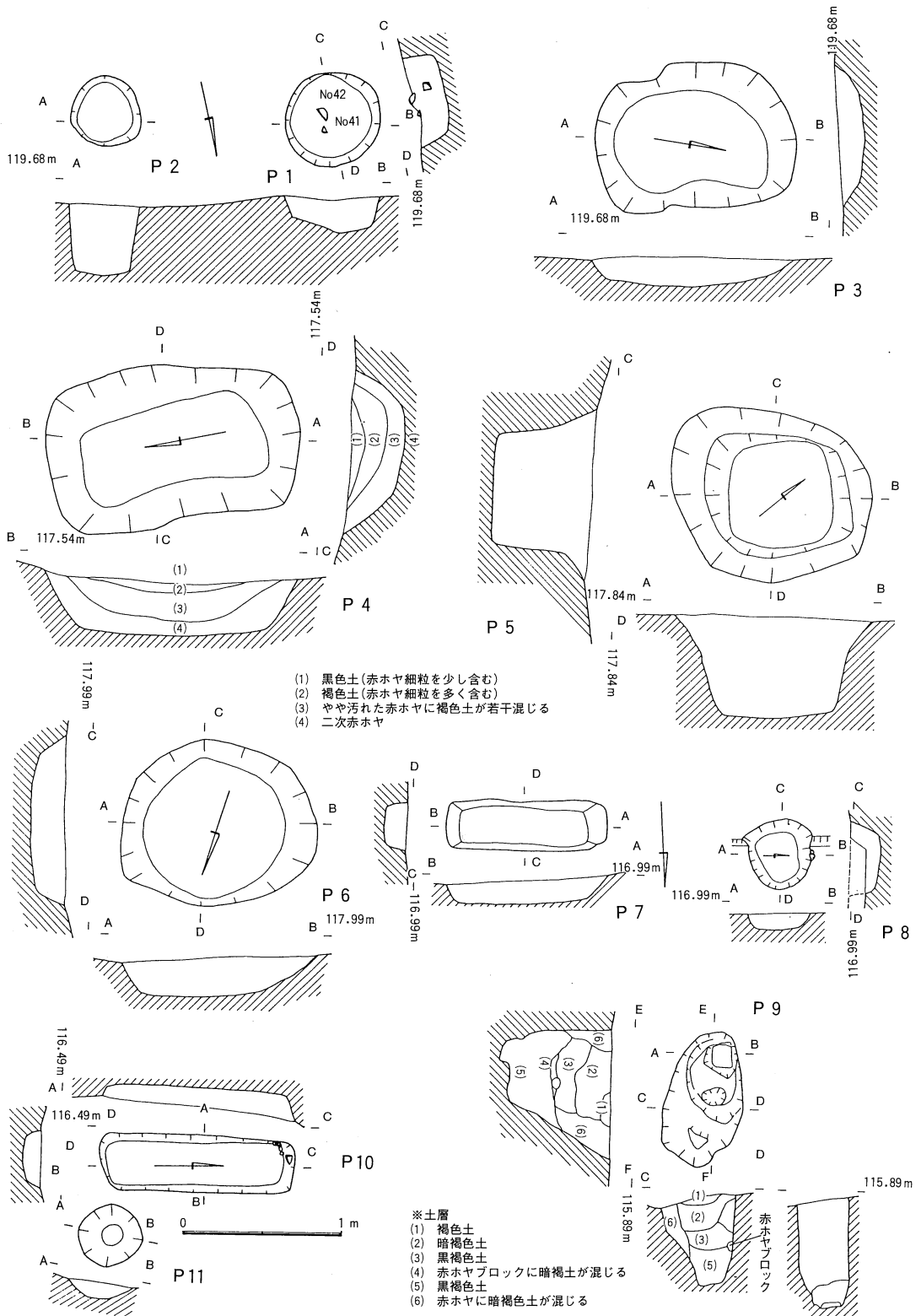
表1 谷合遺跡遺構一覧表

遺構名	形状	検出区	規模	時期	出土遺物	備考
ピット1 (P-1)	円形	AH2	60×60×20cm	近世	陶磁器	
ピット2 (P-2)	円形	AH1	44×43×45cm	近世	陶磁器	
ピット3 (P-3)	不整円形	A11	127×90×20cm	不明		
ピット4 (P-4)	不整長方形	AE0	160×100×33cm	不明		
ピット5 (P-5)	不整形	AA1, AB1	125×110×63cm	縄文?	縄文土器	精製磨研浅鉢等
ピット6 (P-6)	楕円形	AB0	121×106×24cm	不明		
ピット7 (P-7)	長方形	BE1	102×30×18cm	不明		
ピット8 (P-8)	不整円形	BD1, BD2	46×39×10cm	不明		
ピット9 (P-9)	不整円形	BC1	85×50×70cm	不明		炭化物、柱穴
ピット10 (P-10)	長方形	BB1	121×35×15cm	不明		
ピット11 (P-11)	円形	BB1	40×39×10cm	不明		
溝1 (D-1)		BB0, 1, 2, 3, BC3	幅40cm	不明		

P5はAA1区、AB1区に跨って検出された。検出面では長125cm、幅110cmの不整形を呈しているが、底面では、長さ65cm程の隅丸方形である。深さはおよそ63cmで、埋土は黒色土の単一層であった。埋土から精製磨研浅鉢の胴部小片等が少量出土した。

P6はAB0区で検出した。検出面の長径121cm、短径106cm、深さ24cmの楕円形土壙だが、底面では径およそ85cmの円形を呈している。埋土は黒色土単一層である。遺物は検出されなかった。

P7はBE1区で検出した。長さ102cm、幅30cm、深さ18cmの長方形土壙で埋土は黒色土単一層である。遺物は検出できなかった。



第9図 ピット(1/40)

P 8はBD 1区からBD 2区にかけて検出された。土壙の規模は径46cm以上あり、円方不明瞭な形状をしている。発掘区の境にあり掘り込み面は少なくとも2次アカホヤ面以上である。埋土は黒色土単一層であり遺物の検出は無かった。

P 9はBC 1区で検出した。検出面は長径85cm、短径50cmの不整楕円形、底面は長径が40cm、短径が30cmの楕円形を呈している。底面は2段に掘削されていて、西端におよそ20cm四方の方形の掘り込みが見られる。その底部までの深さは約70cmである。埋土は上から褐色土、暗褐色土、黒褐色土、黒褐色粘質土の順に堆積していて、壁際には暗褐色土にアカホヤが混ざった埋土が認められた。遺物は検出できなかったが、埋土上層に少量の炭化物が混入していた。

P 10はBB 1区で検出した。長さ121cm、幅35cm、深さ15cmの規模を持つ長方形土壙である。埋土は黒色土単一層で遺物は見られなかったが、北木口部に礫が浮いた状態で検出された。

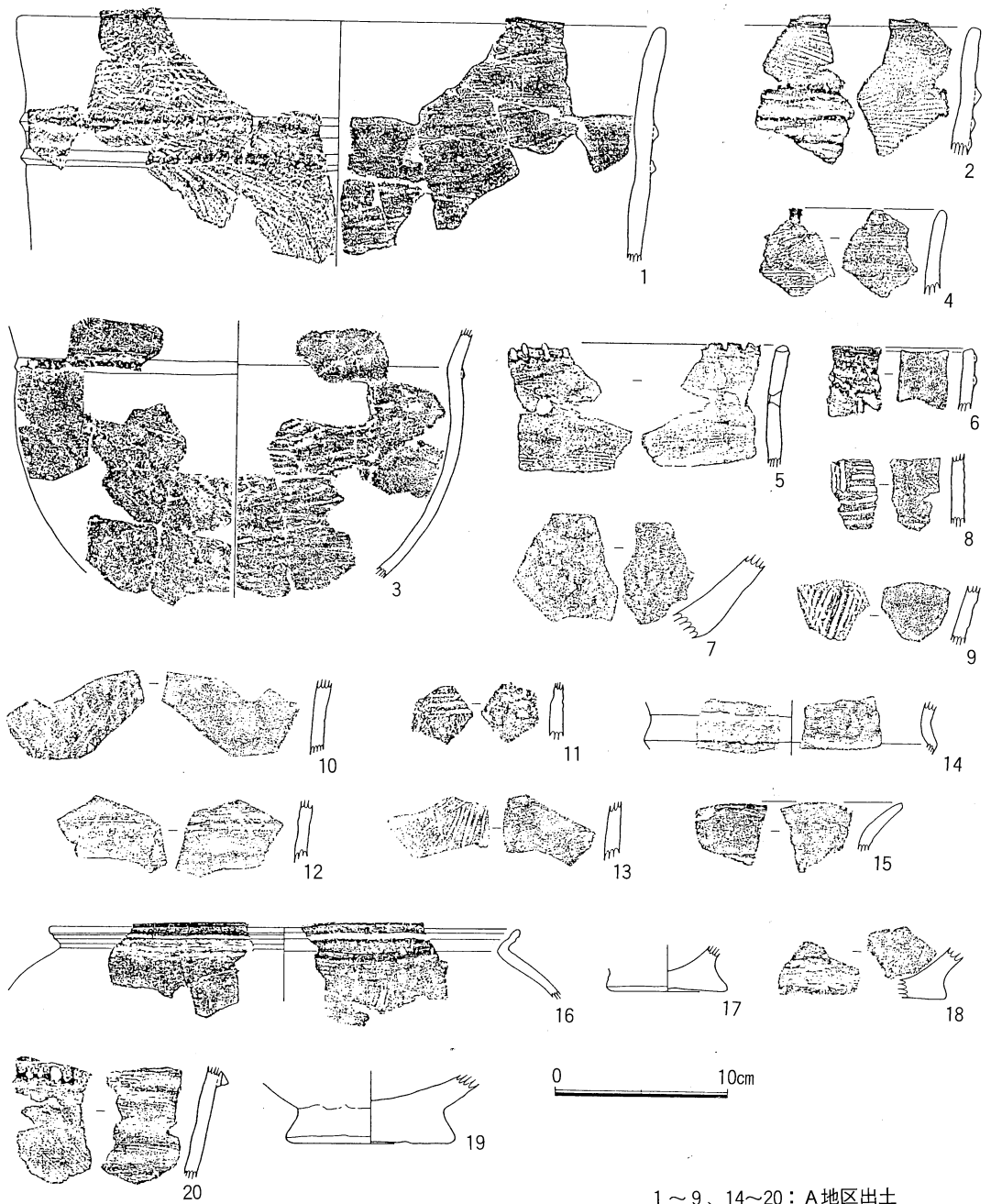
P 11はBB 1区で検出した。径約40cm、深さ10cmの円形土壙で、浅い播鉢状を呈している。埋土は黒色土単一層で遺物等は検出されなかった。

溝はBB 1区からBC 3区にかけて検出した。幅約40cm、深さ約10cm内外の小規模な溝である。黒荷田川に沿った斜面からはほぼ東西に掘られていて、BB 3区とBB 4区の境附近から弧状に北へ湾曲している。発掘区の外に延びていて全貌はわからない。遺物の出土は無く時期は不明で、埋土は黒色土である。

第4節 遺物（第10図、第11図、第12図、第13図、表2）

縄文土器及び石器類はA地区、B地区共に出土しているが、B地区の出土遺物は少なかった。分布はAB区、AE区を中心にその附近に集中する。完形あるいは大きな破片は無く、小破片で散在していた。轟B式と晩期精製磨研土器の殆どはP 5附近のAB 1、2区から検出され接合も近辺出土のものに限られていた。曾畑式は、AE、AF区附近とBC 0区の2箇所にかたまって検出された。近世の磁器類はすべてA地区のP 1、P 2及びその近辺から出土した。

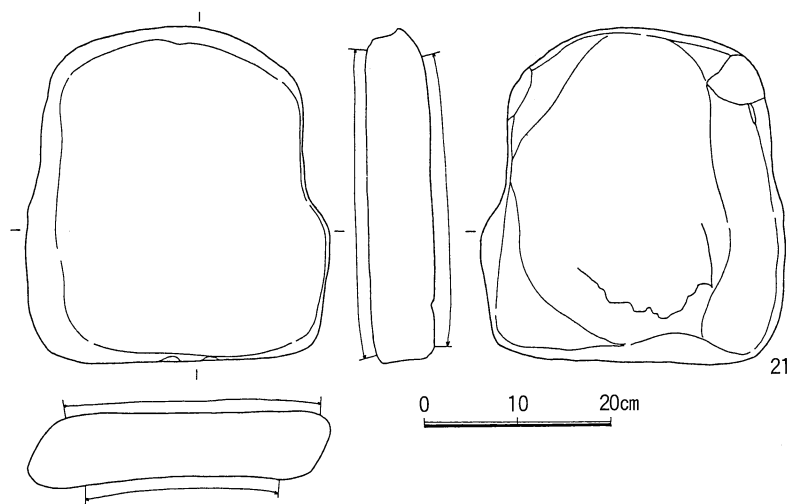
縄文土器（第10図） 1、2は轟B式の口縁部から突帯部分にかけての破片で、両者とも内外面調整は貝殻条痕だが、1は突帯が2条、2は突帯が3条である。1の復元口径は37cm前後だが、それより小さくなる可能性が高い。3は頸部がくびれて胴部が丸くなる浅鉢で、頸部の復元径は26cm程度である。頸部には小さな突帯が1条巡っている。突帯は細かな押圧刻みがほどこされ、部分的に貝殻復縁による刻みも認められる。器面調整は外面が丁寧なナデ、内面が貝殻条痕である。沈線は見られないものの深浦式の系統と思われる。6は3に類似した口縁部で、口唇部直下に2条の細突帯が施され、細かな丸い押圧刻みが施されている。器面調整は内外とも丁寧なナデである。4、5は同一個体と考えられる深鉢の口縁部で、口唇部に押圧刻みが施されている。器面調整は内外面とも細かな貝殻条痕である。5は焼成後穿孔されている。8、9、10、12、13は



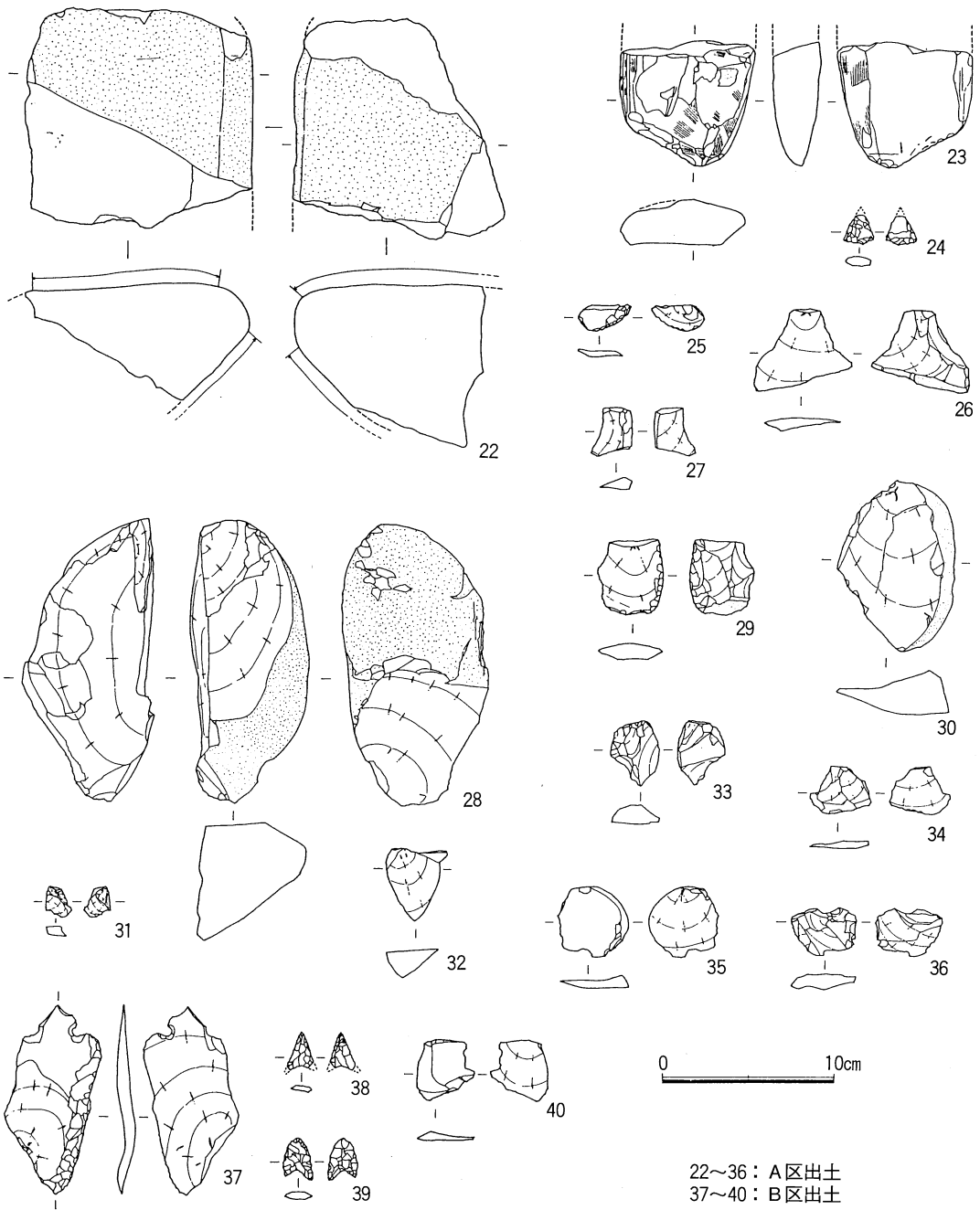
第10図 縄文土器(1/4)

曾畑式の内でも比較的新しい時期の深鉢胴部片である。8、9の沈線文が比較的深く、丁寧に施されているが、10、13は折帯文が雑で浅い。11は塞ノ神式の深鉢胴部片で、内面はナデ調整されている。器表は網目撚糸文が施されている。14から20は晩期の土器片である。14は半精製浅鉢の胴部片で器面調整は内外共丁寧なナデである。胴部屈曲部の復元径はおよそ17cmである。15は半精製鉢の口縁部で内外面とも丁寧にナデ調整されている。外面下端に沈線が1条施されている。16は内外面とも研磨調整された精製磨研浅鉢で口縁部の内外面にそれぞれ1条の沈線が施されている。口縁部の復元径は約27cmである。17、18、19、は晩期に特有の張り出し底で、器面は内外ともナデ調整されている。20は刻目突帯文土器の胴部片で、内外面とも細かな貝殻条痕が施された後一部ナデ消されている。突帯は丁寧に成型された三角突帯で、刻目は鋭く深く刻まれている。

石 器 (第11図、第12図) 石器には石皿、磨製石斧、打製石鏃、石匙、スクレイパーがあり、その他に石核、剥片、チップ類が検出された。21、22は砂岩製の石皿で、21は長さ35.6cm、幅32.2cm、厚さ7cm、重量15.5kgの大きさである。両面とも使用されている。23は半折している

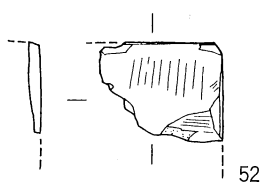
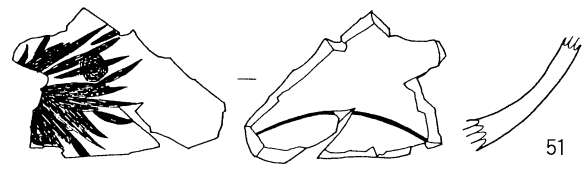
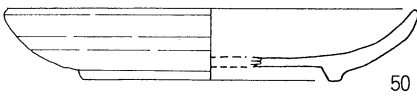
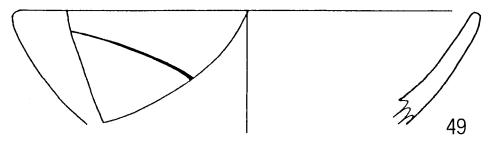
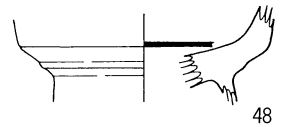
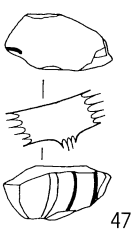
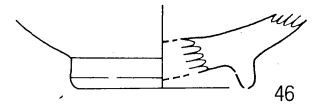
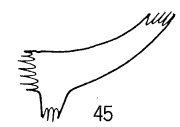
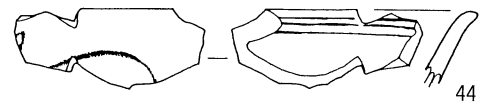
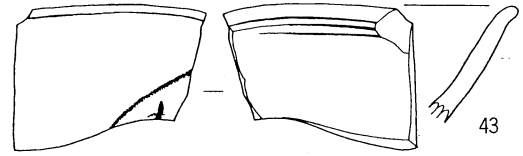
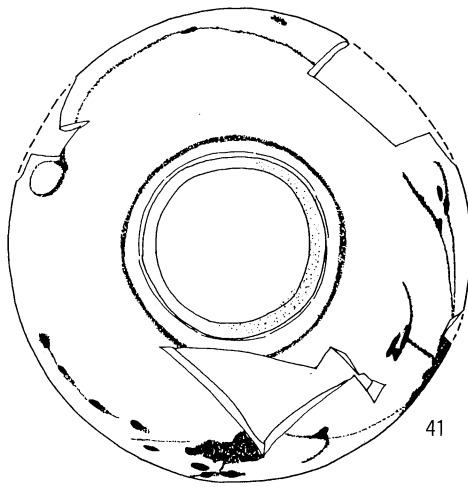
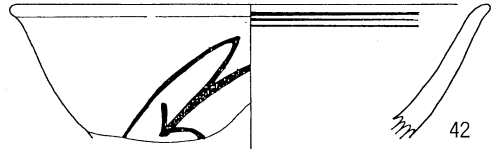
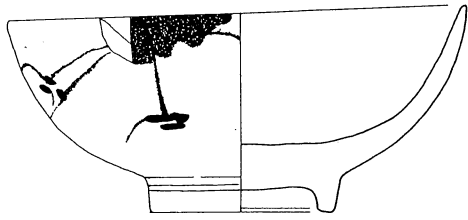


第11図 石皿 (1/8)



22~36 : A区出土
 37~40 : B区出土

第12图 石器類(1/4)



第13图 磁器·砥石 (1/2)

石斧の刃部附近と思われる。複雑に磨かれている。24は黒曜石、38は姫島産黒曜石、39はチャート製の打製石鏃である。37は頁岩製の石匙で、長さ10.6cm、幅4.7cm、刃部の長さ9.2cmの比較的大型の石匙である。縦長の剝片をそのまま利用し、つまみと平行に刃部が形成されている。25、29はスクレイパーで、29は姫島産黒曜石が使用されている。32は頁岩の剝片で、27、28、30、34、36、40は流紋岩の石核、剝片、チップ類である。以上の石器は縄文時代のものと考えられるが、1点だけ近世以降の砥石（第13図52）が検出された。

磁器（第13図） 41～44、47～49、51は染付、45、46は国産青磁である。41はほぼ完形に復元できた唯一の磁器で、口径12.3cm、器高5.3cmを測る。口縁部が端反の42から44は同一個体と考えられる。41、45、46は蛇の目釉剥ぎが施されている。50は近世末から明治時代にかけての印判皿である。

第5節 ま と め

谷合第2遺跡は、遺構の分布がまばらで、時期が判明するものは近世のP1、P2および縄文晩期の可能性のあるP5だけである。縄文時代の遺物も二次堆積のアカホヤ層中に散見されるだけで顕著な纏まりが見られなかった。従って、非常に小規模な営みの痕跡であるか、集落の主体は幾分山際にあり、その遺物が廃棄された、もしくは流れ込んだかのいずれかの性格を持つと考えられる。近世においても、建物跡等は確認できなかった。しかし柱穴P1に廃棄された磁器類は徹底した破碎を受けており、この遺跡では深く追求することは不可能だが、そこに何等かの祭祀たとえば、家の廃絶の祭などの存在を考えてみる必要があるかもしれない。

縄文土器は、早期の塞ノ神式1点、晩期の磨研土器少量を除けば、殆どが前期から中期にかけてのものと思われた。轟B、曾畑の新相の他に、^注 桑畑光博が中期前葉に設定したⅢ類（突帯文系土器）に類似する第10図6などの存在が注目される。

（注）

桑畑光博 「南部九州における縄文時代前期末から中期前葉の土器について」『鹿児島考古』
第27号 1983

表2 谷台遺跡遺物一覽表(1)

分布図番号	出土区	集測図番号	器種等	部位	遺存度	時期	内 ナテ	備 考
	B地区試掘	11	深鉢(鏝ノ神式)	胴部	破片	縄文早期		
	AC0統周辺	23	磨製石斧?	刃部附近?	破片	縄文		
	AC2統周辺	36	剣片			縄文		流紋岩
	B地区試掘	31	チャップ			縄文		黒曜石
	A地区	52	砥石		破片	近世後期?		
	A地区試掘	29	スクレイパー		完形	縄文		姫島産黒曜石
	A地区試掘	26	剣片			縄文		
	B地区試掘	40	剣片			縄文		
	AH2区P1-1	41	染付碗		ほぼ復元完形	近世後期		蛇の目軸ハギ 高台底部露胎 重ね焼
	AH2区P1-2	42	染付碗	口縁部	約1/4	近世後期		実測図43,44と同一個体 端反り口縁
	AH2区P1	43	染付碗	口縁部	破片	近世後期		実測図42,44と同一個体 端反り口縁
	AH2区P1	44	染付碗	口縁部	破片	近世後期		実測図42,43と同一個体 端反り口縁
	AH2区P1	45	磁器碗	底部	破片	近世後期		蛇の目軸刺ぎ
	AH2区P1	48	青磁	底部	約1/7	近世後期		
	AH2区P1	46	青磁	底部	約1/5	近世後期		蛇の目軸刺ぎ 国産
	AH2区P1	47	染付	底部	破片	近世後期		
	AH1区P2	49	染付	口縁部	約1/8	近世後期		
	A地区	50	磁器皿		約1/5	近世未以降		高台底部露胎 型底割り
	A地区	51	染付碗	胴部	破片	近世後期		
	AA1区P5		精製磨研浅鉢	胴部	破片	縄文晩期	内外 研磨	実測図16,分布図2と同一個体か?
1	AB0区	28	石核		破片	縄文		流紋岩
2	AB0区	15	鉢	口縁部	破片	縄文晩期	内外 ナテ	半精製
2	AB0区		精製磨研浅鉢	胴部	破片	縄文晩期	内外 研磨	実測図16と同一個体か?
2	AB0区		精製磨研浅鉢	口縁部	破片	縄文晩期	内外 研磨	実測図16と同一個体か?
5	AB0区	16	精製磨研浅鉢	口縁部	1/10	縄文晩期	内外 研磨	黒川式併行?
6	AB1区		鉢	底部	破片	縄文	ナテ	
9	AB1区		精製磨研浅鉢	口縁部	破片	縄文晩期	内外 研磨	黒川式併行?
12	AB1区	18	深鉢	底部	破片	縄文晩期	内外 ナテ	
16	AB1区	14	浅鉢	胴部	破片	縄文晩期	内外 ナテ	
17	AB0区	30	銅片		破片	縄文	内外 ナテ	半精製
20	AB1区		精製磨研浅鉢	胴部	破片	縄文晩期	内外 研磨	流紋岩
22	AB1区		深鉢(鏝B式)	胴部	破片	縄文晩期	内外 研磨	実測図16と同一個体
23	AB1区	1	深鉢(鏝B式)	口縁部	破片	縄文前期	内外 貝殻条痕	突帯
25	AB1区		チャップ		破片	縄文前期	内外 貝殻条痕	突帯 2条 分布図番号55,56,57と接合
26	AC2区	24	打製石鏃			縄文		黒曜石
27	AC1区		深鉢	口縁部	破片	縄文前期?	内外 貝殻条痕 鏝B式?	黒曜石
29	AD0区		深鉢	口縁部	破片	縄文前期?	外 貝殻条痕 鏝B式?	
30	AD0区		銅片			縄文		
31	AD1区	27	チャップ			縄文		流紋岩
32	AD2区	32	銅片			縄文		頁岩

表2 谷合遺跡遺物一覧表(2)

分布図番号	出土区	実測図番号	器種等	部位	遺存度	時期	調整	備考
33	AF0区	22	石皿		破片	縄文		砂岩
37	AF1区		銅片			縄文		
42	AH2区	7	漆鉢	底部	銅片		内外 ナテ	
45	AG1区	25	スクレイパー					
46	AD0区	34	銅片					流紋岩
47	AD0区		チップ					
49	AF0区	8	漆鉢(皆畑式)	胴部	破片	縄文前期	内外 ナテ	新
50	AF1区	17	漆鉢	底部	1/1	縄文晩期	内外 ナテ	
51	AE0区	9	漆鉢(皆畑式)	胴部	破片	縄文前期	内外 ナテ	
52	AB1区	19	漆鉢	底部	約2/3	縄文晩期	内外 ナテ	
55	AB2区	1	漆鉢(溝B式)	口縁部	破片	縄文前期	内外 貝殻条痕	突帯2条 分布図番号23.56.57と接合
56	AB2区	1	漆鉢(溝B式)	口縁部	破片	縄文前期	内外 貝殻条痕	突帯2条 分布図番号23.55.57と接合
57	AB1区	1	漆鉢(溝B式)	口縁部	破片	縄文前期	内外 貝殻条痕	突帯2条 分布図番号23.55.56と接合
57	AB1区	2	漆鉢(溝B式)	口縁部	破片	縄文前期	内外 貝殻条痕	突帯3条
57	AB1区		銅片			縄文		
58	AB1区		漆鉢	口縁部	破片	縄文前期?	内外 貝殻条痕 轆B?	
60	AC1区	33	チップ			縄文		
64	AC2区		漆鉢(溝B式?)	胴部	破片	縄文前期?	外 ナテ	突帯
65	AD0区	6	漆鉢	口縁部	破片	縄文	内外 ナテ	突帯2条
67	AD1区		漆鉢(溝B式)	胴部	破片	縄文前期	内外 貝殻条痕	突帯
68	AD2区	35	銅片			縄文		重量15.5kg 砂岩
69	AD0区	21	石皿		完形			分布図72.73と接合 実測図20と同一個体か?
71	AE0区		漆鉢(刻目突帯文)	胴部	破片	縄文晩期	内外 細貝殻条痕	
72	AE0区		漆鉢(刻目突帯文)	胴部	破片	縄文晩期	内外 細貝殻条痕	分布図71.73と接合
73	AE0区		漆鉢(刻目突帯文)	胴部	破片	縄文晩期	内外 細貝殻条痕	分布図71.72と接合
74	AE0区		チップ			縄文		
75	AE0区	20	漆鉢(刻目突帯文)	胴部	破片	縄文晩期	内外 細貝殻条痕	口唇部刻目 実測図5と同一個体か?
75	AE0区	4	漆鉢	口縁部	破片	縄文	内外 細条痕	焼成後穿孔 口唇部刻目 分布図76と接合 実測図4と同一個体か?
75	AE0区	5	漆鉢	口縁部	破片	縄文	内外 細条痕	焼成後穿孔 口唇部刻目 分布図75と接合
76	AE0区	5	漆鉢	口縁部	破片	縄文	内外 細条痕	焼成後穿孔 口唇部刻目 分布図75と接合
82	AE2区		漆鉢	口縁部	破片	縄文前期?	内外 ナテ	微細刻目突帯2条 実測図6.分布図86と同一個体か?
83	AE2区		漆鉢	胴部	破片	縄文前期?	内外 ナテ、貝殻条痕	微細刻目突帯1条 実測図3と同一個体か?
84	AE2区	3	漆鉢	胴部	約1/5	縄文前期?	内 貝殻条痕 外 ナテ	微細刻目突帯1条 分布図87.89.90.91.92と接合 分布図83と同一個体か?
86	AE2区		漆鉢	口縁部	破片	縄文前期?	内外 ナテ	微細刻目突帯 貝殻復縁刺突文 実測図6.分布図82と同一個体か?
87	AE2区	3	漆鉢	胴部	約1/5	縄文前期?	内 貝殻条痕 外 ナテ	微細刻目突帯1条 分布図84.89.90.91.92と接合
89	AE2区	3	漆鉢(溝B式?)	胴部	約1/5	縄文前期?	内 貝殻条痕 外 ナテ	微細刻目突帯1条 分布図84.87.90.91.92と接合
90	AE2区	3	漆鉢(溝B式?)	胴部	約1/5	縄文前期?	内 貝殻条痕 外 ナテ	微細刻目突帯1条 分布図84.87.89.91.92と接合

表 2 谷合遺跡遺物一覧表(3)

分布図番号	出土区	集瀬図番号	器種等	部位	遺存度	時期	調整	備考
91	AE2区	3	深鉢(楯B式?)	胴部	約1/5	縄文前期?	内 貝殻条痕 外 ナテ	微細刻日突帯1条 分布図84,87,89,90,92と接合
92	AE2区	3	深鉢(楯B式?)	胴部	約1/5	縄文前期?	内 貝殻条痕 外 ナテ	微細刻日突帯1条 分布図84,87,89,90,91と接合
101	BE1区	37	石匙		完形	縄文		頁岩
102	BD1区	38	打裂石鏃		基部欠損	縄文		姫島産黒曜石
103	BD1区	39	打裂石鏃		完形	縄文		チャート
105	BC0区	12	深鉢(管細式)	胴部	破片	縄文前期	内外 ナテ	新 分布図106と接合
106	BC0区	12	深鉢(管細式)	胴部	破片	縄文前期	内外 ナテ	新 分布図105と接合
106	BC0区	10	深鉢(管細式)	胴部	破片	縄文前期	内外 ナテ	新
106	BC0区	13	深鉢(管細式)	胴部	破片	縄文前期	内外 ナテ	新



谷合第2遺跡遠景



発掘調査前全景



B地区発掘前風景（A地区から）



工事後の谷合第2遺跡（北から）



P 1 磁器出土状况



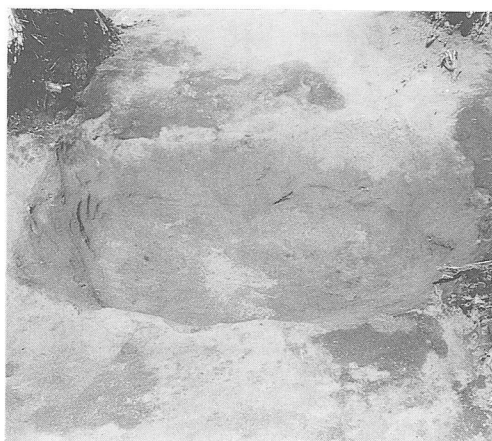
P 1



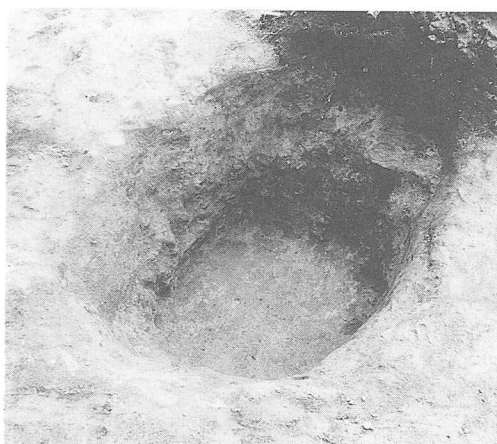
P 2



P 3



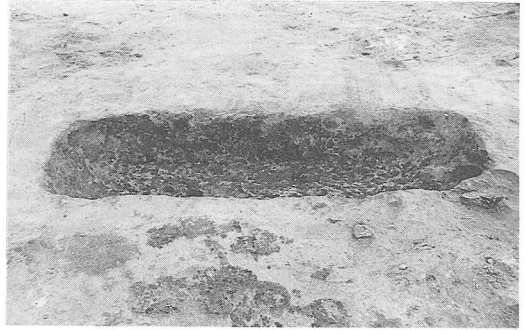
P 4



P 5



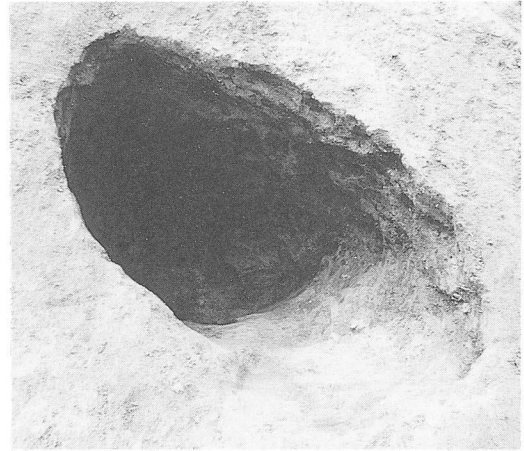
P 6



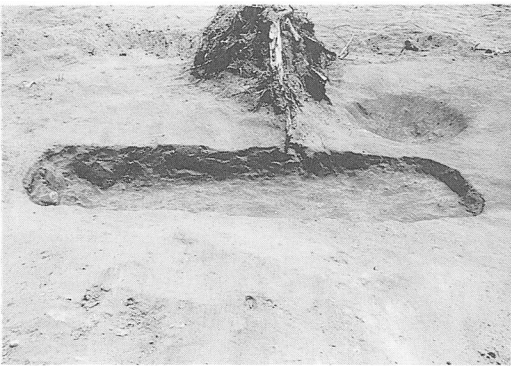
P 7



P 8



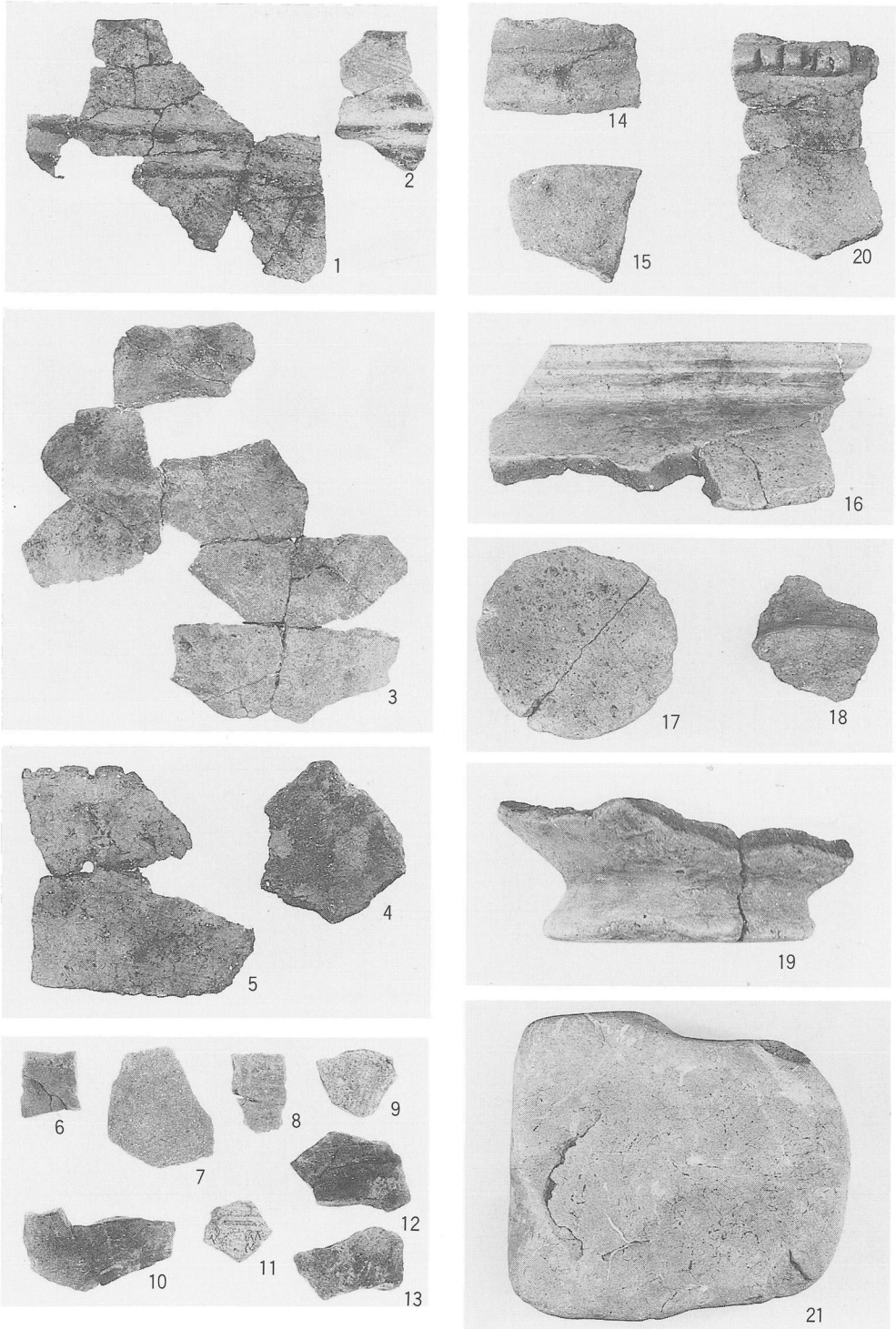
P 9



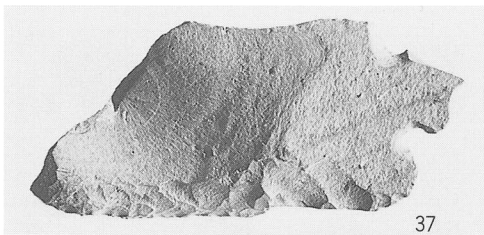
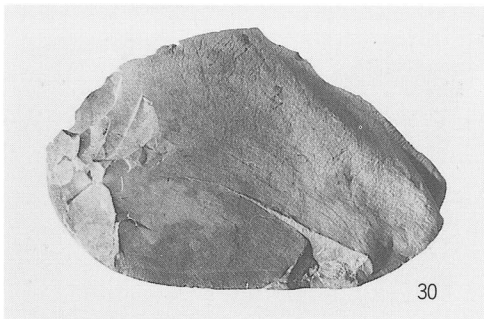
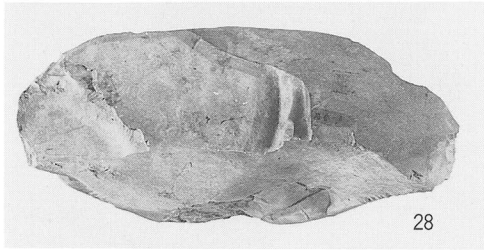
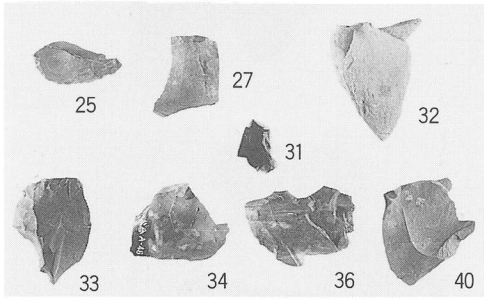
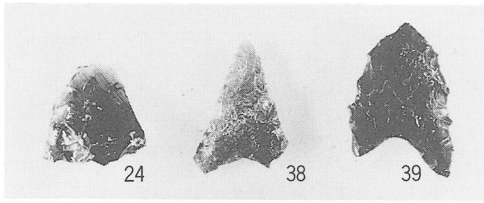
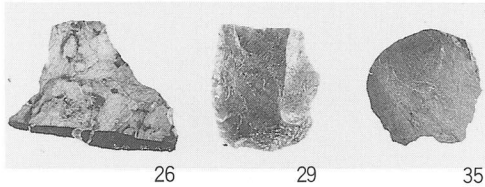
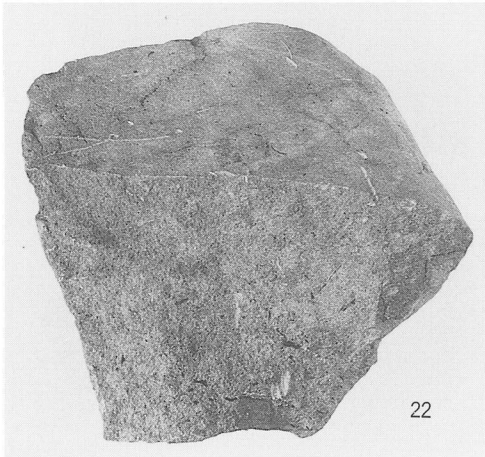
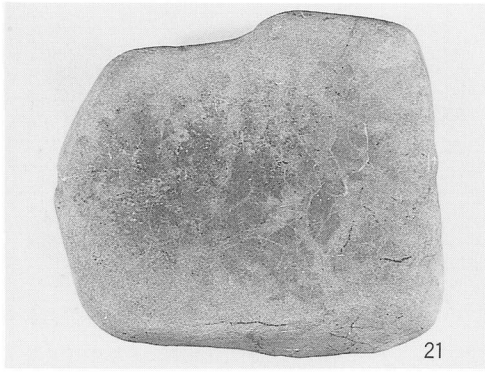
P10 (下)、P11 (上)



P10 (左)、P11 (右)



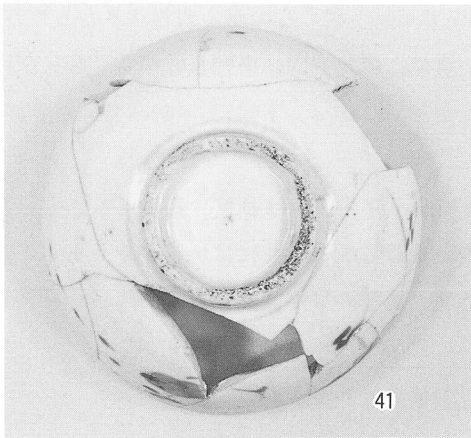
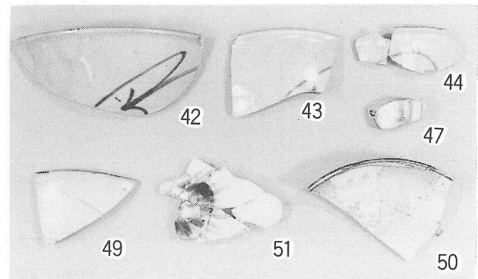
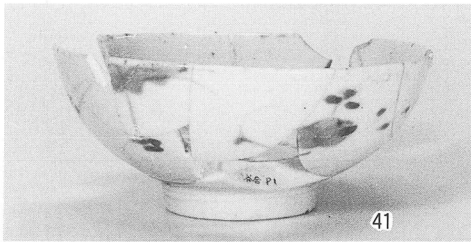
出土遺物：縄文土器・石器（番号は実測図と同一）



出土遺物：石器（番号は実測図と同一）



P 1 検出磁器破碎状況



出土遺物：石器（番号は実測図と同一）

IV 大塚遺跡

第1節 調査の概要

調査対象となった部分は、大塚古墳の南の山際である。試掘調査は、遺物・遺構等の存在が予想される緩斜面にトレンチを7か所設定して実施した。当地の基本層序は、第Ⅰ層表土（黒色を呈する）、第Ⅱ層締まりのない暗褐色土で下部ほど褐色味がつよくなる、第Ⅲ層褐色土（2次アカホヤ）、第Ⅳ層アカホヤ、第Ⅴ層赤褐色土が混じる灰青色火山灰、第Ⅳ層やや堅く締まる暗灰褐色土で小礫を含む、第Ⅶ層粘質の暗褐色土となっている。各トレンチでは、東端に設定した第7トレンチで表土下位がアカホヤであった以外は、土層の残りは良い。遺物は、第2トレンチの第Ⅱ層から第Ⅲ層で縄文後期の土器、第3トレンチで青磁片等が出土しているのみであり、遺構は確認されなかった。試掘調査の結果から本調査は、第2・3トレンチ周辺の18m×13m、230㎡を調査対象として実施することとした。

調査は、対象地内の表土を重機で除去後、第Ⅱ層の面から遺構等の検出に努めた。その結果、溝状遺構3条（SE1～3）、プランが不整形の土坑が4基（SC1～4）、ピット状のもの4個程切り合って検出されている。遺物は、青磁、焼石のほか縄文後期の土器等が少量出土しているのみである。第Ⅲ層の調査については、トレンチ法で実施した。縄文後期の遺物が少量出土したのみで遺構は検出されていない。

第2節 調査の結果

1 遺構

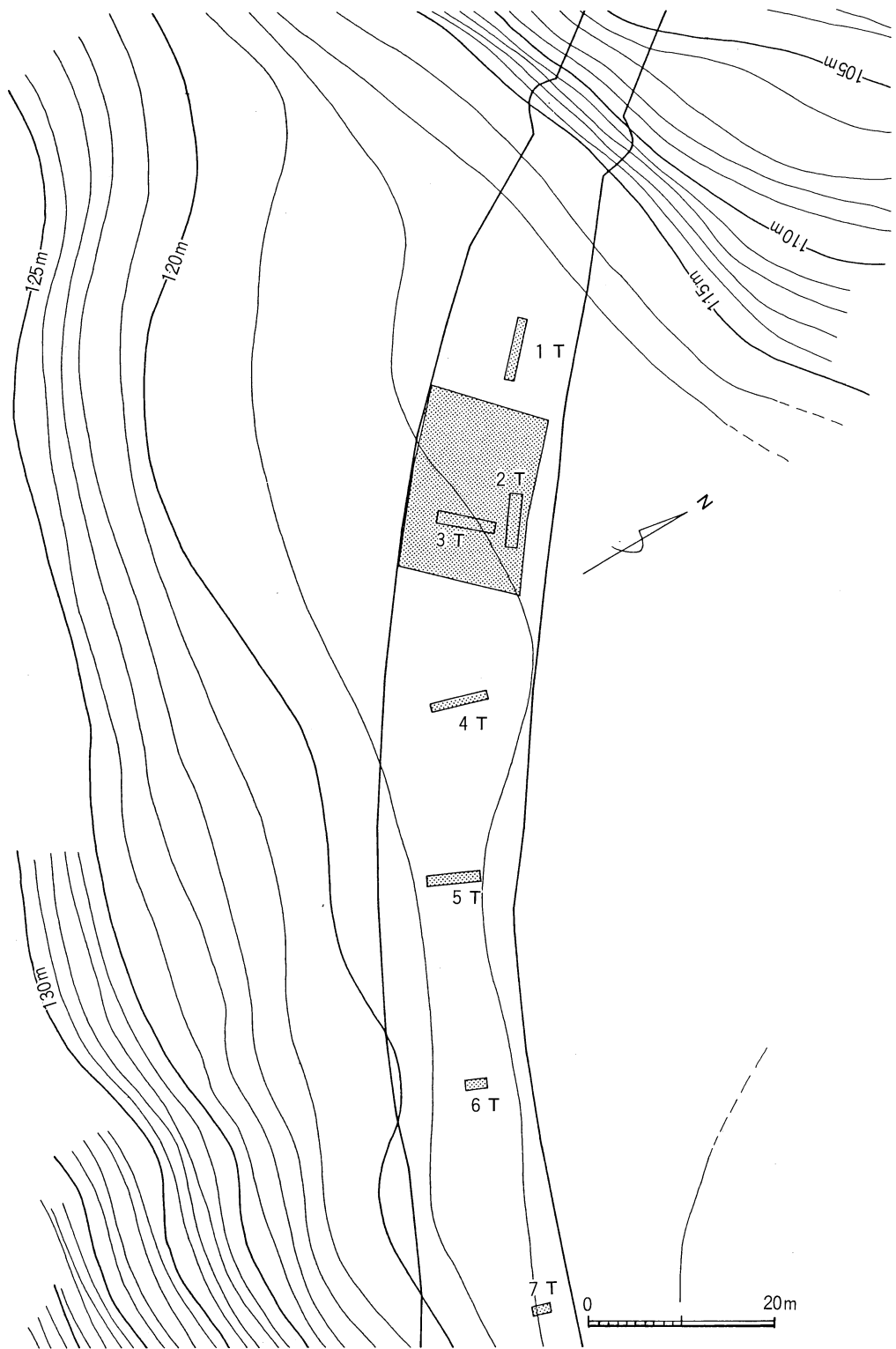
溝状遺構SE1は、北西～南東方向にほぼ直線状に延びている。上幅約200～170cm、下幅60cmで、深さ20cmほどが計測される浅い溝である。溝の埋土は、黒褐色系の土がレンズ状に堆積し、第3層には部分的に黒色のブロックを含む。溝の中央でピット状のものが4個程切り合っており、上部で焼石が2個出土している。SE2・3も浅い溝で、南北方向に平行している。SE2は、SE1上で東へほぼ90度でおれている。SE2は上幅205～110cm、下幅130～60cmで、深さ16cm、SE3は上幅70cm、深さ9cmほどが計測される。

土坑SC1は、隅丸長方形で長軸200cm、短軸70cm、深さ15cmほどが計測される。SC2～4は一部しか調査していないが、10cm～15cm程で浅いSC13の上部には焼石がややまとまっているが人為的に配石された状態ではなかった。その他、焼石の集中区はSC3の集石状態と同様の焼石の集中区が2か所検出されている。

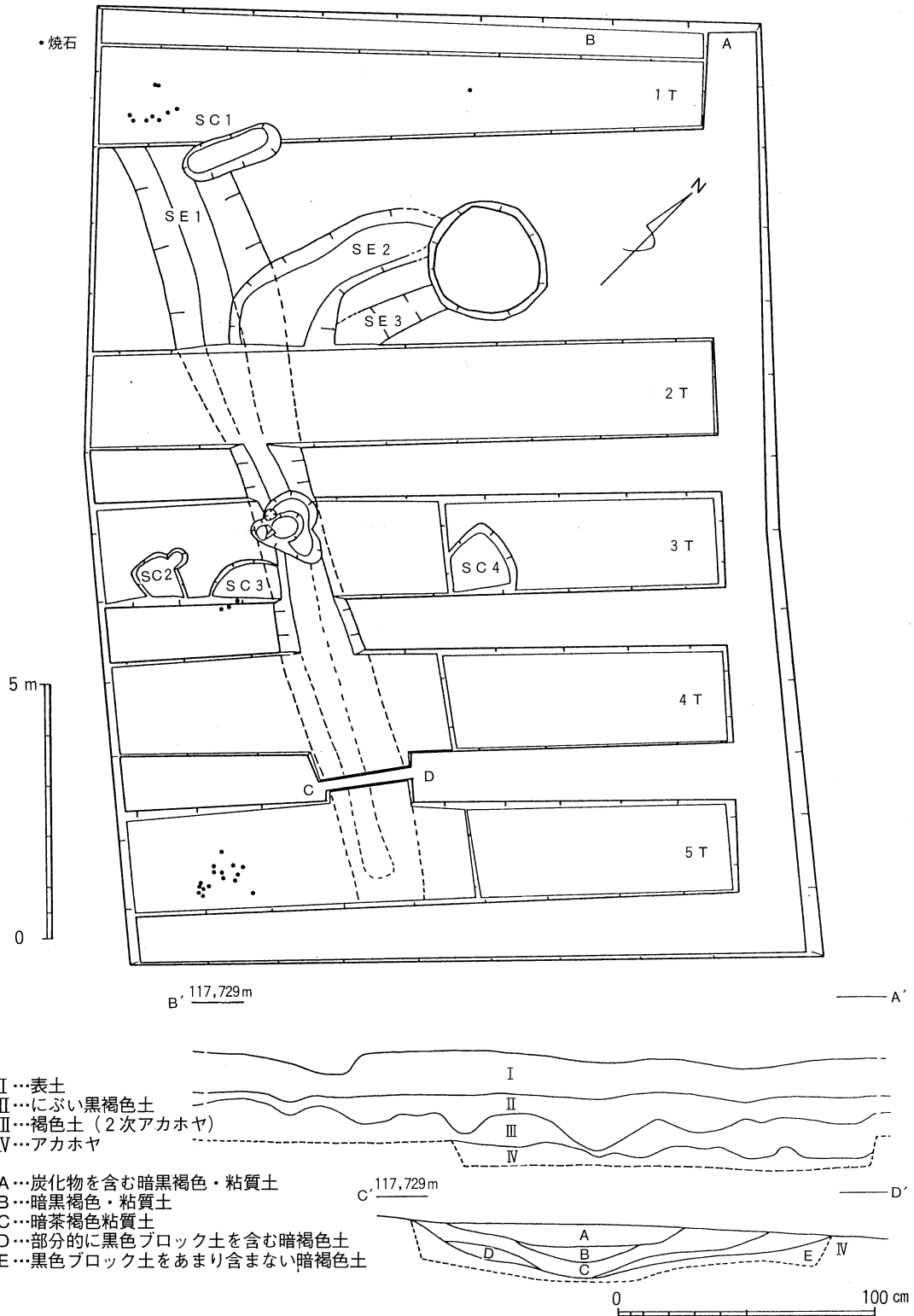
検出された遺構は、出土遺物、埋土、焼石等から中世の可能性が高い。

2 遺物（第16図）

遺物は、縄文土器（1～8）と中世（9～12）の遺物である。縄文土器は、単線・斜線の沈線



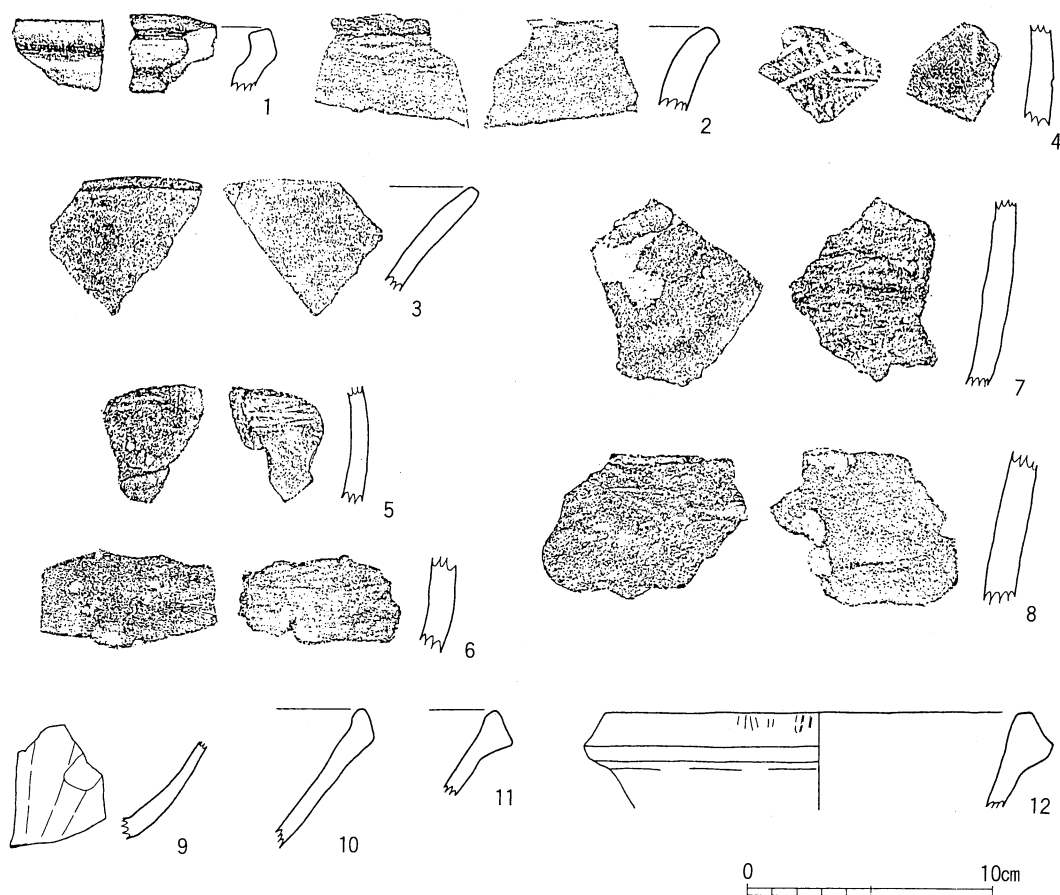
第14図 大塚遺跡地形図及びトレンチ配置図



第15図 大塚遺跡遺構分布図・土層図

文が施文された4以外は無文である。器面の調整は、ナデ或いはヘラナデであり、内面にヘラナデが多用され、内面の調整が外面に比べ丁寧である。1～3は口縁部で内傾する1、わずかに外反する2、大きく広い3とバラエティに富むが、いずれも頸部が内湾し胴部下半部で屈曲する深鉢形が推測される。5は貝殻条痕文風に見えるが、ヘラナデの痕である。4以外は外面にスス附着している。出土した縄文土器は、この特徴から後期後半の時期と考えられる。

9は、鎬風の稜線が縦方向に3条見られる青磁椀で下端は露胎となっている。10・11は東幡系の捏ね鉢で、口縁部は断面三角形形状で上部は黒塗りになっている。12は、口縁部に鐳が巡る滑石製の石鍋である。材質は極めて悪く、赤褐色の粒子が多量に含まれ、器面には凹凸が多く見られる。



第16図 大塚遺跡出土遺物 (1/3)

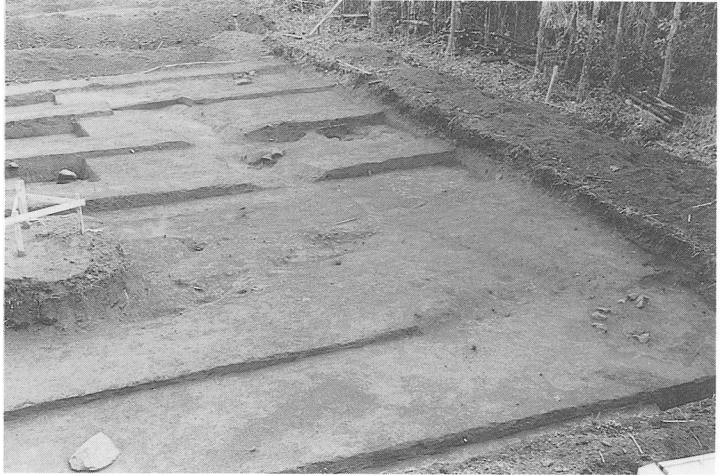
表3 大塚遺跡出土遺物観察表

番号	出土地等	時期	器種等	部位	調 整		文 様	備 考
					外 面	内 面		
1	4 T	縄文後期	深 鉢	口縁部	ナデ	ナデ		スス付着
2	4 T	縄文後期	深 鉢	口縁部	ナデ	ナデ		スス付着
3	3 T	縄文後期	深 鉢	口縁部	ナデ	ヘラナデ		スス付着
4	表土	縄文後期	深 鉢	胴 部	ナデ	ナデ	沈線文	
5	5 T	縄文後期	深 鉢	胴 部	ヘラナデ	ヘラナデ		スス付着
6	5 T	縄文後期	深 鉢	胴 部	ナデ	ヘラナデ		スス付着
7	5 T	縄文後期	深 鉢	胴 部	ナデ	ヘラナデ		スス付着
8	3 T	縄文後期	深 鉢	胴 部	ヘラナデ	ナデ		スス付着
9	表土	中 世	青磁碗	胴 部				鎬風稜線あり 下端露胎
10	表土	中 世	捏ね鉢	口縁部	ナデ			口縁部黒塗り
11	2 T	中 世	捏ね鉢	口縁部				口縁部黒塗り
12	6 T	中 世	鍋	口縁部				滑石製・赤褐色不純物を含む

大塚遺跡近景



調査区南半部

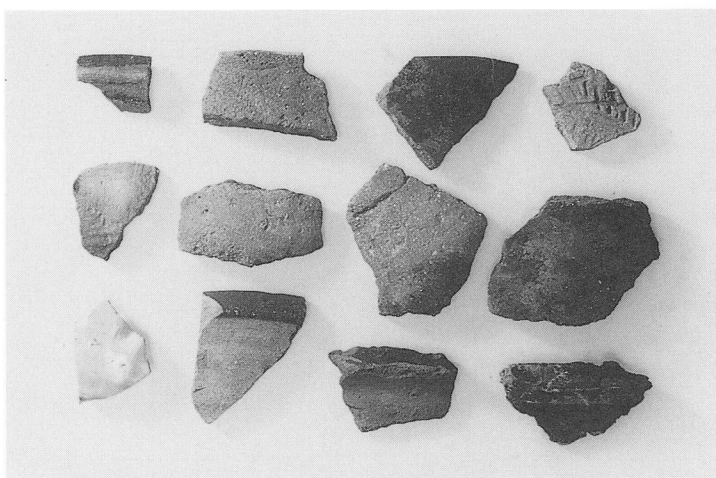


第5トレンチ礫出土状況

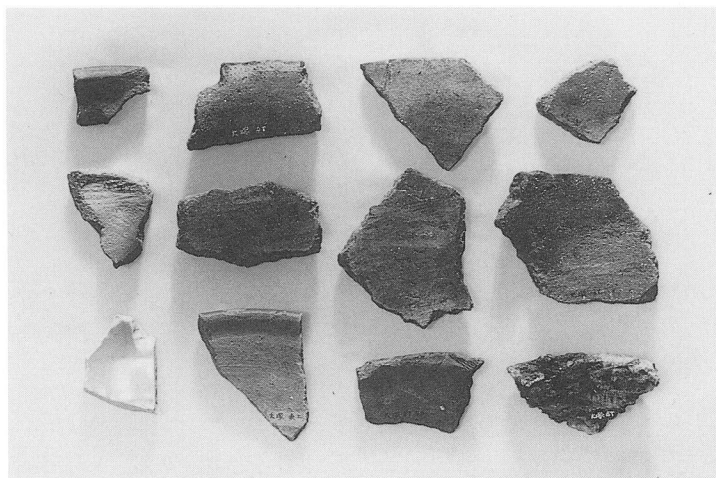




SE1土層



出土遺物（表）



出土遺物（裏）

谷 合 第 1 遺 跡
谷 合 第 2 遺 跡
大 塚 遺 跡

沿海南部地区広域農道建設事業に
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(2)

平成 6 年 3 月

編集
発行

宮 崎 県 教 育 委 員 会

〒880 宮崎市橘通東1丁目9-10
